

No.

A

私の家庭円満法

家庭円満には、お互いの理解、信頼以外に

「ふ」と思ふ事。私の家庭など、外から想像

のに見えらるゝもしないせん。若者夫婦は共

に富む者(息子は日本史、大學生教授 嫁は國文

学の短大助教授)で、一冊を越す膨大な本

山に国語小字書齋で読み書き他は、何

の趣味も持たないからです。

しかし、実は21才で富んで湖北へ一家

がります。わが家では各々の仕事や言動に

お互い絶対、信頼と理解もしてしまった。

毎晩、入浴も、私と嫁と孫娘、一諸に入り、

洗って文字どおり裸にさらつて何でもしゃべり、

今や話しあうのである。辛いことも嫌がるのも

沙汰しないで済んで、身も心もばくしく、

明日に向って頑張らうという気持ちには

云々で笑わせます。こうして、わが家族では、
減歩に吹風。立派にとばかりません。

(*昭和三十八年七月)新潟県

かねき

(67)

和十七年の夏は、私はアスフルトも泥の可程の例
年暮れでした。二十九歳で農業改革の時
日々で、三ヶ月後、大半は生後廻りで乳児見
と私を残して、出生征期十ヶ月(南方)ローモン
情熱的農作業を信頼する暇を惜しながら内鐵はア
子供の農業自立を心にしめました。か落葉(自己子)
育てた大半。生保会社に入社、雨の日も風日もヘルを
踏んで被服(モコモコ)をして、昨年暮春骨折
退職して、今は全く自由気浪の毎日です。今更
夫婦と、嫁して三十多年間途中は終らず
想せぬ、人災(火)も豈難(ひどく)病魔(ひどく)も再
今やの大国民夫婦生活、いつも草葉の
陰から英靈(ひきみやう)仰顔(あおがほ)が小(こ)そと、娘や孫(まごやまご)と付
是處(そこ)から精神(じんぱい)も世界(せかい)へ進(すす)んで身(み)も
天國(てんぐ)へ昇(あが)めました。上(うえ)は奴(やつ)が道(みち)を進(すす)んで身(み)も
被(ひ)て印度(いんべつ)の成(な)り道(みち)をさすとお別(わかれ)て
今日(きょう)は大印(だいいん)の成(な)り道(みち)をさすとお別(わかれ)て

B 五十五章

第三稿 作文

